

# 手賀沼通信

2006.8

第 25 号

編集・発行 美しい手賀沼を愛する市民の連合会

〒271-1146 千葉県 我孫子市高野山新田 193 千葉県手賀沼親水広場気付

## 10周年記念の会から新たな歩みを

来る9月2日に、「美しい手賀沼を愛する市民の連合会結成10周年記念行事」を開催します。第1部は「これからの活動とともに語り合いましょう」と題して、活動の方向性やどのようにして参加を広げていくかについて、率直に提言していただく場とします。第2部は懇親会としてこれまでお世話になった方々も含めてたくさんの参加をお願いしています。

当連合会は、平成7年12月3日に、結成されました。翌平成8年の「手賀沼通信・創刊号」に初代会長の星野保氏は次のような呼びかけをされています。「・・・発会総会において池谷奉文氏（日本生態系保護協会会長）は、己の目前の欲望にとらわれることなく、子孫のために100年の大計のもと、かつての美しい手賀沼に限りなく近づけることが、我々の重大な責務であり、何をなすべきかを示唆してくださいました。

私達はその教えにしたがい、ただいまから会の活動を通して、市民の期待に応えたいと思います。皆さん意を新たに頑張りましょう。・・・」

この10年、連合会は様々な活動を行ってきました。岩垂環境庁長官との懇談会、「We Love 手賀沼」「手賀沼年表」の出版、「手賀沼流域フォーラム・手賀沼ふれあいフェスタ」の開催、「手賀沼ビオトープ」作りや運営への参加、「統一クリーンデイ」等々です。

しかし、10年を過ぎて活動への参加者が固定してきた面もあります。また会の目的の達成を目指して、次の世代にも積極的に参加してもらわなければなりません。この10周年記念行事でいただいた提言を“力”にして、意を新たに頑張っていきたいと思います。

(竹中真理子 記)

### 目次

10周年記念の会から新たな歩みを.....	1
10周年記念を契機に立ち上げる事業の概要 .....	2
平成18年度総会(1)総会報告 .....	3
(2)講演『手賀沼はどう変わったか』.....	3
手賀沼マラソンよりの活動資金について .....	4
市民が水質調査をするということ(小倉先生に答えていただくQ&A).....	5
手賀沼水環境保全協議会として統一運営が始まる .....	6
第5期手賀沼に係る湖沼水質保全計画とタウンミーティング .....	7
指定管理者制度と手賀沼 .....	8

# 10周年を契機に立ち上げる事業の概要

美しい手賀沼を愛する市民の連合会では、10周年を契機として以下の3つの事業を行う予定です。

一つは先に述べた9月2日の「美手連結10周年記念行事」です。加盟団体の皆様も大勢でご参加ください。

二つ目は、「(仮称)手賀沼ニュース」として新聞形式の出版物を計画しています。手賀沼の歴史や現状、これから目指すものなどについて、わかりやすく情報をまとめていきます。予定部数は10,000部、10月下旬に発行する予定です。

「手賀沼エコマラソン実行委員会」からは、手賀沼の浄化に役立てて欲しいと、この3年間で250万円もの寄付金をいただきました。この寄付金で統一クリーンデーに際して必要な用具・道具類を購入することができました。

今年度はこの「新聞」の経費としても使います。1面トップ記事を「手賀沼エコマラソン」として、マラソン参加者にも配布したいと考えています。

もう一つは、水生生物再生事業です。これは、当連合会が発足の当初から、活動目標として掲げていたことです。手賀沼が全国湖沼水質ワースト1から脱却した今、これから目指すべきことは、さらなる浄化と、生態系の復活です。

千葉県でも水生植物再生事業を昨年度から始めています。県が事務局をしている「手賀沼水環境保全協議会」の事業として位置づけ、対象を流域の小中学校として、昨年度から始められました。生徒たちにかつて手賀沼に生息していた水草(ガシャモクなど)を育てて増やしてもらい、流域の適地に植え戻していこうという事業です。

昨年度は11月に、千葉高校のビオトープのガシャモク・ササバモと、手賀沼にマ

シジミとガシャモクを復活させる会(マシジミの会)のガシャモクを配布しました。配布が一方的だったのと育て方の説明が不十分だったため、うまく育たない学校が多かったようです。

今年度は、7月下旬にマシジミの会が用意した水草の苗を配布しました。印西・我孫子・柏など15校が希望し、水の館で、マシジミの会会員が、苗の植え付けや育て方を説明しながら配布しました。9月にも配布を予定しています。一方的な配布ではなく、希望を受けたことでより積極的な参加が望めると思います。

今後、配布した水草がうまく育てられるように、マシジミの会も学校へ出向く等の協力をしていきます。また、育てた水草を植え戻すための適地を探すための流域調査を今年度検討していくことになりました。

我孫子市では、市民の親子を対象にして水草の里親を募集し、育てて増やした水草を谷津田で植栽していく事業を計画しています。これにもマシジミの会と協働ですすめていく計画です。

「自然保護は自然の観察から始まる」...今後、特に、手賀沼全流域での、水生生物(特にマシジミと水草)の調査をしていくにあたり、広く市民の協力を得るため連合会も協力していくことになりました。

(竹中真理子 記)



マシジミの会の調査の様子

# 大勢のお客様を交えて開催された 平成 18 年度総会

〔総会報告〕

平成 18 年度の美手連総会は 6 月 11 日に手賀沼親水広場 3 階研修室で、千葉県環境生活部水質保全課より寺井課長他 2 名を、柏市環境保全課より田村主幹他 1 名を、印旛沼環境団体連合会より岩波氏をお迎えして開催された。

総会の内容は例年の通りで、平成 17 年度事業報告と決算・監査報告。平成 18 年度事業計画案と予算案の審議がされ、平穩に承認された。

今年度は役員改選期に当たり、これまで長年会計であった八鍬氏が副会長に、我孫子の景観を育てる会の梅津氏が会計に、ホームサイエンス倶楽部の吉崎氏と大堀川の水辺をきれいにする会の青木氏が会計監事に就任した。 (山木健一 記)

〔講演『手賀沼はどう変わったか』〕

〔概要〕生き物と環境の研究に造詣深い、千葉県立千葉高等学校教諭(生物)浅間茂氏によって、「手賀沼はどう変わったのか～これから目指していくこと～」と題して総会後に講演が行なわれた。

講演は、手賀沼はどう変わったのか、これから目指していくこと、の 2 つに大別。予め配布されたレジュメに沿って、スライドを用い、分かりやすく話された。

## 1. 沼はどう変わったのか

(1) 沼の変化 先ず、一般的な沼の変化について説明。のち手賀沼について詳述された。手賀沼は汽水(海水と淡水の混合した低塩分の水)の状態であった内湾から湖沼に変わったため、最初から富栄養湖(栄養塩類の多い生物生産力の高い湖)で、水はある程度汚れ、魚も多く生息していた。その後も徐々に栄養化が進み、水草も大量に繁茂するようになった。が、農家が水草を田ん

ぼの肥料に伐採するようになって、生態系の遷移はストップされ、沼の浄化にも役立った(ある程度の汚れで止められていた)。

しかし、昭和 40 年代に始まる流域人口の増加によって、家庭雑排水や工場排水が流れこむようになり、手賀沼の水質は急激に悪化した(昭和 54 年度、COD 28mg/L)。昭和 30 年代に記録された多種類の多くの水草も、40 年代後半にはヒシを除いてほとんど見られなくなった。

(2) 浄化対策 流域下水道の普及率は高まった(現在約 8 割)が、沼への流入量が減少。流れが弱くなり、水質は悪化した。この解決策として、利根川の水を一部手賀沼に放流する北千葉導水事業を始めた(平成 12 年 4 月放流開始。水量は最大 10m<sup>3</sup>/秒)。その結果、手賀沼の水質は改善された(平成 16 年度、COD 8.9mg/L)が、別の変化も生じるようになった。即ち、以前の沼の水は 3 週間で 1 回転(3 週間で沼の水すべてが変わる)していたのに、現在は 5 日で 1 回転に。沼の流れが非常に早くなった。このためプランクトンが減少し、上沼と下沼のプランクトン量の差も減少。魚貝類はモツゴ(クチボソ)が減り、コイ・フナが全域で産卵。利根川のナマズ・ブラックバス・ドブガイが生息、ハクレン(レンギョ)が増加。沼は水源の利根川の支流的生態系に変わってきた。

(3) 生態系の変化 手賀沼の生態系の変化を生き物を中心にスライドで紹介 魚を食べる鳥の変化...少なくなったモツゴなどを餌にする弱体化したカワセミの例。下沼に限られていた生息が沼全域に広がったミコアイサ(パンダガモ)。カモの変化...プランクトン(餌)の減少で少なくなったハシビロガモ(手賀沼を代表する鳥)。周辺の湿地(餌場)がなくなって減少したカルガモ・マガモ。 帰化動物の増加...バリケン・

カナダガン・アヒル・コブハクチョウなど、公園の鳥ともいえるこれらの鳥が野生化し増えることは生態系を崩し、自然破壊にもつながる。これらの鳥に餌を与えてはならない。

(4) 沼周辺の整備事業 導水路に沿って太い舗装道路ができ、サイクリングやマラソンなどと自然に親しまれている。が、この道路は動物の世界にとっては遮断である。生き物に犠牲を要求するなら、また動物を大事にするには我々も犠牲を払わなければならない。併せて、ふるさと手賀沼らしさの重要性を共通意識として確認することである。

## 2. これから目指していくこと

(1) 沼及び周辺の豊かな生態系...とくに大きな獣(けもの)にとっては生息場所・連

続性が、鷺・鷹類には緑の面積が大事。人工照明はほどほどの明るさを、暗闇も大事。産卵場所・隠れ場所を考え、いちばんの要因は湧き水・水草である(水質がよい今が水草を戻すよいチャンス)。(2) 絶滅に瀕している特定種...ガシャモク・マシジミ・アカガエル・メダカ・ホタルなどを増やす取り組み。(3) 多額の費用のかかる北千葉導水事業後を見据えた対処法...流域内の雨水の利用、不耕機栽培、きめ細かい浄化など、先々を考えた取り組み。そのためには、(4) 行政・組織・個人のつながりを大事に...自然を大事にしていく人を育て(学校との連携、体験学習、広報などにより)、児童・生徒、ボランティア、地域の自治会などの連携を。

(中村 明 記)

# 手賀沼エコマラソンよりの活動助成金

「よみがえる手賀沼 さわやかに走ろう！」をスローガンに手賀沼エコマラソンが今年も開催され、12回目を数えることになります。

手賀沼エコマラソン実行委員会は、参加費の一部を手賀沼浄化のための費用に活用してまいりました。旧くは家庭で使う水切りネット等を地元の学校等を通して配っておられたそうです。更に効果的な活用先として、私たちの美手連に白羽の矢が当たったと聞いております。誠に嬉しいことです。

平成15年度は丁度、私どもの統一クリーンデイのスタートの年であり、エコマラソン実行委員会の『手賀沼浄化のために使って欲しい』との要望に応える形で、火バサミ、熊手等のごみ収集の小物から、ゴムボート、テント、発電機、刈払機、リヤカー、救命胴衣、胴長や倉庫等々を揃えて、統一クリーンデイの活動をしてきました。

また、これらの備品を活用した個々の団体の活動として、手賀沼に浮かぶ大津川の

中洲上のゴミの撤去や、大堀川・大津川の清掃活動など枚挙にいとまがありません。

エコマラソンからの助成金の会計処理も初めの2年間は一般会計とは別立てに取り扱いましたが、本年2月のエコマラソン事務局との打ち合わせを経過した6月の美手連総会では一般会計の収入として扱うように変わりました。

本年度は、清掃活動、手賀沼浄化活動、さらに、手賀沼ニュース(仮称・新聞形式)を発行しエコマラソン参加の皆様にも読んで頂く予定です。ワースト1だった手賀沼から日本中に私たちの大切な手賀沼と浄化への活動が広く伝えられるとっております。

エコマラソンの助成金とは別に、美手連にはこれまで各方面の方々から戴いた寄付金・補助金や刊行物販売利益等があり、これらを利用して、活動が少しでも元気になるように、昨平成17年度から『手賀沼基金』制度を発足させました。これを更に充実させたいとも願っています。(八鍬雅子 記)

## 市民が水質調査をするということ 小倉先生に答えていただくQ & A

千葉県環境研究センターの小倉久子水質環境研究室長による本稿は手賀沼通信の第22号から連載で3回にわたり寄稿いただきました。

今回から小倉先生の手をわずらわせず、Q & Aという形で、より分かり易くまとめていただきました。協働調査の一助になるよう活用してください。

なお、編集部では皆さんからの質問も募集しています。日ごろの協働調査で疑問に思っていること、人前で聞いては恥ずかしいと思っていることでも結構です。各団体の美手連理事を通して、または直接、美手連事務局宛お送りください。

Q1. CODのバックテストは高濃度用と低濃度用がありますが、その使い分けはどのように覚えておけばよいのでしょうか。

文字通り、高濃度（汚い）水には高濃度用を使うということですが、低濃度用は最大でも8mg/Lまでしか測れません。普通の川では低濃度用を使って8mg/Lの色になってしまったら、8mg/L 以上と考えて、高濃度用で測りなおしてください。低濃度用は色が薄くて、慣れるまではちょっと分かりにくいかもしれませんが、8mg/L未満だったら低濃度用のほうが正確です。高濃度用の値と食い違った結果が出たら、低濃度用の値のほうが正確だと思いますので、そちらを採用してください。どの川も低濃度用だけですむようになるといいですね。

Q2. アンモニア性、硝酸性、亜硝酸性窒素をバックテストで測っていますが、なぜこのようにいろいろなものを測らなければならないのでしょうか。この3者の間に何か関係する法則があるのでしょうか。

生活排水に含まれる窒素は、多くが有機

態窒素（たんぱく質、アミノ酸など）です。これが浄化槽や下水処理場で処理されると、アンモニア性窒素（ $\text{NH}_4 - \text{N}$ ）に分解され、さらに処理の仕方によっては酸化（酸素がくっつく）されて亜硝酸性窒素（ $\text{NO}_2 - \text{N}$ ）や硝酸性窒素（ $\text{NO}_3 - \text{N}$ ）になるのです。窒素は、処理場の中だけでなく、川を流れていくうちに、空気と触れることによって同じように硝酸性窒素に変わっていきます。（このような働きを、川の持つ「自浄作用」といいます。）

ですから、川の水の窒素の形態を調べることによって、未処理の家庭排水が含まれるとか、川の自浄作用が働いているということが推測できるのです。硝酸性窒素と亜硝酸性窒素は、上の化学式からもわかるように、酸素が十分にある時には硝酸性窒素（酸素が3つついている）になり、酸素が少ない時（汚い水、自浄作用が不十分）には亜硝酸性窒素（酸素が2つしかない）になります。

Q3. アンモニア性窒素、硝酸性窒素、亜硝酸性窒素が、川の流れに沿って変化する例が、私たちの測定値で明らかになった例があれば、教えてください。

H.18年度の1回目の調査で、私は金山落の調査に参加させていただいたのですが、ここでは、上流部でアンモニア性窒素が高く、硝酸性窒素はほとんどなかったのに、中流、下流ではアンモニアが少なくなり、硝酸性窒素濃度が増加していました。見た目にも、下流では透視度が増加してきれいになったことが確認できました。

Q4. バックテストの標準色表の、下の数字を使う意味を教えてください。

1つの色で上と下に違う数値が書いてあ

るので、ややこしいのですが、これをきちんとしないと、せっかくの調査結果がグチャグチャになってしまうので、注意しましょう。硝酸性窒素を例にとって説明します。硝酸性窒素( $\text{NO}_3\text{-N}$ )というのは硝酸イオン( $\text{NO}_3^-$ )の形の窒素という意味です。ですから、「硝酸イオン」と言うと(N+3つのO(酸素))というかたまり(イオンといいますが)全部をさすので、1個(1単位量)の重さは62(=14+16×3)なのですが、「硝酸性窒素」というと、その中の窒素だけを指すので、重さは14にしかありません。パックテストの標準色表の上には「硝酸イオン」として読む場合、下には「硝酸性窒素」として読む場合の数値が書いてあります。ですから、硝酸イオンが1mg/Lの時、硝酸性窒素は0.23mg/L(=1mg/L×14/62)になるのです。下の数値を読んでもいただくというのは、Q2. で書いたように、

川を流れていくうちに窒素の形態が変化するので、「\*\*性窒素」では同じ1mg/Lだったとしてもアンモニアイオンにすると1.3mg/L、硝酸イオンでは4.4mg/Lになってしまうので、窒素だけに注目しておく方が分かりやすいからなのです。

りん酸性りん( $\text{PO}_4\text{-P}$ )とりん酸イオン( $\text{PO}_4^{3-}$ )の関係も同じです。りんの場合は、有機物の中に含まれるりん(有機態りん)、重合している(つながっている)りん酸、オルトリン酸、などの形があるので、やはり「りん酸性りん」(下の数値)を使うことをお勧めします。

ちなみに、これはとてもわかりにくくて混乱する人が多いので、最近のパックテスト(共立理化学研究所)には $\text{NO}_3^-$ イオン用と $\text{NO}_3\text{-N}$ 用の2枚の色表がついて、違いがはっきりわかるように改善されています(りん酸性りんについても同じ)。

## 平成18年度手賀沼水環境保全協議会 通常総会が開催される

平成18年5月10日(水)午後2時から千葉県手賀沼親水広場・水の館研修室に於いて、協議会長堂本暁子千葉県知事が議長として議事が進行しました。

本総会では、手賀沼浄化事業連絡会議(手常連)の統合等に伴う所要規定の整備を行ったことが骨子となった。組織の一元化を図り、併せて職務代理等について所要の改正を行った。

手賀沼水循環回復行動計画に基づく取り組みの推進等に関する事項について検討するため、専門委員会を開催することも決定した。

- 私たちの活動に関連するものとしては
- (1) 手賀沼統一クリーンデイ事業の後援
  - (2) 必要に応じた手賀沼水質浄化に関する啓発事業の実施
  - (3) 手賀沼水循環回復行動計画関連事業としてNPO及び住民等と協働・連携

し、手賀沼流域において、湧水調査、水質・水生生物調査を行う。

### (4) 水生生物の再生事業

手賀沼流域の小中学校やNPO等と連携し、かつて手賀沼に生育していたガシャモク等の水生植物を再生し、健全な水辺環境の回復を図る。水生植物の埋土種子や保存株から育てた苗の実験地への植栽について検討、実施する。さらに、平成18年以降に本格実施する際のビオトープ適地(手賀沼周辺)の調査及びそれらの管理手法の検討を行う。

環境保全協議会構成団体の14名全員が出席。当会からは会長が出席、随行者3名が参加。次年度の当会からの幹事として山木副会長が出席することになります。

『手賀沼の水環境保全に関する協定書』が締結された。1村7市と、土地改良区・

漁協等の利水団体、私たち住民団体、並びに千葉県で構成されている。水質浄化事業と費用の負担が規定された。

手浄連事業は、これまでの検討を踏まえ、事業の一部手直しや整理を行う。また下手賀沼の水質の状況を勘案して、下手賀沼流域の対策として実施可能なものから着手す

るとともに、『手賀沼流域フォーラム』、『手賀沼統一クリーンデイ』への支援を強化する。

これに伴い美手連の役割・責任も新しい段階に踏み込まれようとしています。

(田口迪夫 記)

## 第5期手賀沼湖沼水質保全計画 とタウンミーティング

6月25日に水の館で、県水質保全課湖沼浄化対策室主催の表記のタウンミーティングが開かれましたので、どんな会合なのかちょっと覗いてみようという軽い気持ちで参加してみました。湖沼水質保全計画はこれまでは千葉県で作ったものが一方通行で示されるだけでしたが、今回の法律改正で流域住民の意見を反映することになり、次期(第5期)の手賀沼水質保全計画策定に向けてタウンミーティングが開催されたわけです。ただ掛け声の割りには一般参加者は23名とやや寂しい会合でした。

司会は美手連の上村さんが担当され、初めに環境保全課から手賀沼水質の現状とこれまでの水質保全計画の概要の説明がありました。第5期についての構想は出されませんでしたでしたが、流出水の汚濁負荷量が大きい地区について重点的、集中的に対策を進めるため流出水対策地区を指定するとの新しいプランが示されました。

続いて参加者から質問・意見が出されましたが、主な意見は次の通りです。

- ・ヘドロ浚渫の継続、拡大を望む
- ・ゴミ回収船の計画を実施に移してほしい
- ・温泉ボーリングはストップさせるべき
- ・トライアスロン大会はやっても良いのか
- ・合併浄化槽設置などの助成の拡充を
- ・北千葉導水がない場合の水質変化をどう捉えているか
- ・手賀沼の生態系が変化したと言われるがきちんと実態調査をすべき

・導水以外の効果ははっきりしない、モデル地区を設けて目に見える対策をすべき  
これらに対して県自身の見解はあまり表明されず聞き置くという態度に見えて、物足りなさを感じざるを得ませんでした。また合併浄化槽などの助成措置についてはそれは市町村がやることという回答で、県としての積極的な指導性が感じられませんでした。財政面など色々課題はあるのですが、どこまで真摯な検討がされるのかいささか心もとなくも感じたところです。

手賀沼は北千葉導水で水質は改善されたけれどその他の施策はまだあまり効果を挙げておらず、環境基準を満たすにはまだまだ距離があり、一方で生態系の変化が顕著になって来て今後水質と生き物をどうバランスさせていくかなど大きな課題に直面していることは言うまでもないところです。だからこそ行政は困難でも将来に向けての大きな構想を示す必要があると思いますし、市民の側も感想や憤慨に留まらずもっと実態を勉強し掘り下げた提案をしていかなくては前進はないでしょう。特に美手連は情報を保有する立場から、保全計画に対する会員意見を集約して提出するくらいのことをすべきではないのでしょうか。

今後市民の中からも委員を公募して計画策定に進むとのこと、その開かれた活動に期待したいと思います。

タウンミーティングはまだ始まったばかりで戸惑いもありますが、これから県・市

レベルのいろいろな課題にタウンミーティングが活用されれば協働の確かな場を形成

していくことになるでしょう。

(青木保雄 記)

## 指定管理者制度と手賀沼

『民間で出来ることは民間に！』の合言葉で、行政が行ってきた事業を見直す『指定管理者制度』が本年4月からスタートしました。流域の市町村をはじめ、千葉県もこの制度を適用したことが、さまざまな広報で報じられました。

私たちの手賀沼においても、『千葉県手賀沼親水広場』が財団法人『千葉県環境財団』に、また、『手賀沼自然ふれあい緑道』が我孫子市の株式会社『光風ガーデン』に決定され、業務を継続しています。

千葉県手賀沼親水広場の指定管理者の選考においては、厳正な審査の結果、最終的に4団体から財団法人『千葉県環境財団』が選ばれました。今回の指定管理者の期間は3年間であります。

千葉県との契約は一般の委託契約とは異なり、協定書による契約となっております。そして、大きな目標として、「手賀沼を印旛手賀沼自然公園の一部と捉え、自然や生き物に配慮したビオトープとしての視点を取り入れた維持・管理をめざす」ことを謳っております。

管理を任された親水広場所長からは、「手賀沼水系をフィールドとしたボランティア組織と、3名の広場の技術職員が交流を深めると同時に、近隣の学校との結びつきも大切にしていきたい」との抱負を伺いました。

3年という月日は短いので、来年度には具体的な動きをし、見通しも付けられるように頑張るので、美手連の皆様にもご協力

をお願いします、とのことでもありました。

手賀沼自然ふれあい緑道の公募には6団体が応募し、株式会社「光風ガーデン」が選ばれ、こちらの契約期間も3年間でした。

ふれあい緑道へ行くとアスファルト道路の中央に白線が引いてあり、白線に平行して引いてある緑線が目につきます。この緑線から田圃側が緑道の公園部分であり、光風ガーデンの担当地域であります。この地域の草刈を年間15回も刈ると言うことで、草の伸び盛りには月に2回近く、草が伸びない内に刈ろうとしています。刈草は集めないそうですが、今までとは異なる草草が出現すると期待しました。

更に低木刈り込みが年1回、低木内人力除草が年2回、休憩施設等の定期点検が毎月。毎日2回のパトロールと清掃活動。その上、年に2回ずつのウォーキング講習会や自然観察会も計画され、これまでとは異なるきめの細かさを感じます。

緑線から沼側は、県の担当地域で管理方式も従来とは変わりません。緑道を活動の場としている私たち「沼南手賀沼ボランティア会」としては、活動の主体を昨年の草刈りから、今年は沼側石畳上の草の抜き取りに切り替えました。

(山木健一 記)

### お詫び

前『手賀沼通信』第24号7ページの“創立5周年を迎えた『我孫子の景観を育てる会』”のタイトルは『手賀沼の景観...』と誤っております。訂正してお詫び申し上げます。

『美しい手賀沼を愛する市民の連合会』は次の団体により構成されています。またホームページもご覧ください。  
湖北座会、ふれあい手賀沼の会、流山市立博物館友の会、NP0せっけんの街、水と土・手賀沼の会、我孫子野鳥を守る会、我孫子青年会議所、我孫子の文化を守る会、手賀沼にマシジミとガシャモクを復活させる会、大堀川の水辺をきれいにする会、手賀沼漁業協同組合、生活協同組合我孫子生活センター、ホームサイエンス倶楽部、自治労我孫子市職員組合、沼南手賀沼ボランティア会、我孫子市消費者の会、自治労柏市職員組合、自治労流山市職員組合、自治労鎌ヶ谷市職員組合、岡発戸・都部の谷津を守る会、我孫子の景観を育てる会、大津川をきれいにする会  
URL.....[http://www.geocities.jp/natureland\\_6252/](http://www.geocities.jp/natureland_6252/) サイト名.....美しい手賀沼を愛する市民の連合会

